

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：山梨県大月市立初狩小学校

活動名：チーム力を高める学校組織 ～学校と地域とのチーム力の構築～

解決すべき課題：

本校は、6年前からコミュニティスクールの指定を受け、地域の方にあらゆる面で支えられてきた。学校が地域とのつながりを大切にしていくためには何が足りないか、何をすべきかを把握するために、学校組織マネジメントの講習で学んだ SWOT 分析をした。強みは、地域の方の協力を得て地域の特色を生かした教育活動を行うことができることである。脅威は2つある。1つ目は、学校評価の結果より、学校応援団の存在を知らない保護者が多い。2つ目は学校応援団の方の高齢化に伴い、今後、地域の特色を生かした教育活動を行うことが難しい。この2つの脅威が課題として挙げられる。

目標・方針：課題を解決するために、2つの目標を設定する。

- ① 地域とのつながりを大切にする教育活動を設定
- ② 地域の特色を生かした教育活動をするための人材確保，育成

活動内容：

- ① 前年度の学校評価の結果を参考にして、教師間で各学年の教育活動を見直し、どのような人材が必要であるかを考える。そして、教師間で共通理解を図る。
- ② 学校運営会議を行い、学校応援団と年間計画，活動のねらいを確認する。
- ③ 地域の特色を生かした教育活動を実践する。(※右の表を参照)

各教育活動では、保護者が参加できるようにした。6年生で行う笹子峠越えは、保護者と共に行う親子遠足にし、PTAの学年部長の協力を得て、山伏の格好をしてもらい、児童、保護者に昔の旅人の気分を味わえるようにした。

1年生から6年生で行う教育活動は、次の学年の児童に指導する場を設けた。わらじづくりは、本校卒業生の中学生が6年生に教えてくれた。

- ④ 学年末に振り返りをし、次年度の年間計画を加除修正する。

活動の成果：

本校がコミュニティスクールであるからこそ、地域の特色を生かした教育活動を行うことができる。教師が児童に身に付けさせたい力、活動後の児童の姿をイメージして、計画を立てることができた。体験活動は、次年度に後輩に説明をすることで体験だけで終わらずに、児童間で教え、学び合える場を設けることができた。

各活動で、保護者に参加してもらえるように仕組むことで、学校応援団の存在、学校応援団の方がどのようなことをしてくれるのかを知り、お互いに関わることで、保護者が率先して活動のお手伝いをする場面が見られた。教師だけではなく、保護者と地域の方とのつながりをもつことができた。

また、指導者の高齢化に伴い、中学生、高校生、大学生が関わってくれたことで、今後も地域の特色を生かした教育活動を続ける道筋をつくることができた。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- ・地域の特色を生かした教育活動の実践
- ・教育活動を通して、学校と地域との連携を図ることができる。
- ・特色ある教育活動を行うための人材育成
- ・児童間，異校種の学生との交流する学びの形成

○教育活動の計画

	学年	教育活動の内容	連携
①	1 学年	モルモットの飼育	大学生との連携
②	2 学年	大根の栽培	地域の方との連携
③	2 学年	大根の行商	地域の人との関わり
④	3 学年	地域探検（寺院や文化財の見学）	地域の方との連携
⑤	4 学年	お年寄りとの関わり	地域の方との連携
⑥	5 学年	お米の栽培	地域の方との連携
⑦	6 学年	5年生の時に栽培した米から出たわらを用いてわらじづくり	地域の方と本校卒業生である中学生との連携
⑧	6 学年	作成したわらじを履いて，峠越え（保護者参加）	地域の方（猟友会）との連携 保護者との連携
⑨	6 学年	卒業式の合唱練習	高校生との連携

※⑥と⑦と⑧は、一連の流れがある教育活動とする。

(教育活動の様子)



学校運営会議



1 年生 モルモットの飼育



2 年生 大根の行商



5 年生 米作り



6 年生 わらじづくり



6 年生 笹子峠越え



卒業式の合唱練習